

会員企業ご紹介 15

株式会社エス・アイ・ディ・シー
http://www.sidc.net



COREsecureの概要

COREsecure 開発背景

今日、利用可能なセキュリティ製品で、セキュリティの「最弱な要素」の一つとされているオペレーティング システム(OS)に焦点を当てている製品は非常に限られています。株式会社エス・アイ・ディ・シー (以下SIDCという)は、この事実をいち早く認識し、COREsecure の開発を開始しました。ファイアウォールや侵入検知システム(IDS)は、境界でのセキュリティ保護において非常に有効な手段です。しかし、これらの手段では、システムの「核」であるOSを攻撃者のアクセスから守ることはできません。

ウイルス対策ソフトウェアに関しても同様のことが言えます。ウイルス対策ソフトウェアは、既知のウイルスやワームによる感染からシステムを保護するために開発されたものです。よって、攻撃者によるOSへのアクセスを防止することはできません。マイクロソフト社は、互換性のないソフトウェアや基本的なセキュリティ問題に対して、定期的にセキュリティ修正プログラムや更新をリリースしています。しかし、同社の提供するこのようなソリューションは、単に一時しのぎの対策でしかなく、いずれ攻撃者にOSの「核」へのアクセスを許可してしまいます。攻撃者の狙いまたは目標は、OS上で「Admin」権限を取得することです。攻撃者に「Admin」権限を取得された場合、メールプログラム、機密データ、企業情報、顧客リスト、クレジットカード番号、価格リスト、企業文書、計画書など、コンピュータ上にあるほとんどすべての情報を支配される恐れがあります。

SIDCは、セキュリティを専門に取り扱う企業であるため、ユニークで効果的、かつ知的に設計されたセキュリティ製品を開発することができます。

これまでIT専門家は、INFファイルの作成など、様々なテクニックや技術を駆使して手動でOSの設定を調整する方法を考案せざるを得ませんでした。そして、これらのファイルを、OSの設定にインポートし、数多くのデフォルト設定からカスタマイズ化を実行しました。そうすることで、OSを攻撃に対してより堅牢にすることに成功したのです。

残念なことに、OSの大部分は、購入後、メーカーが設定したデフォルト設定のままインストールされます。これらデフォルト設定は、幾度となく脆弱であることが立証されています。また、これら設定を変更せずにおくと、OSを脆弱なまま稼働させることになり、サーバが直ちにハッカーや不正ユーザーの攻撃的になってしまいます。さらに、ほとんどのサーバは、インターネットに接続後20分以内に、第三者によってスキャンされることが明らかになっています。スキャンされたサーバが脆弱なデフォルト設定のまま稼働している場合、ほぼ間違いなく攻撃の対象となるでしょう。

COREsecureの特徴

● かつてない新しいセキュリティ製品

弊社の知る限り、COREsecureのような機能性およびデザインを提供するセキュリティ製品は他にありません。中でも、「ロールバック機能」は業界初の画期的な機能です。また、COREmonitor

と併用することで、他の製品とは比較にならないほど、システムのセキュリティを強化することができます。

● OSのセキュリティ保護

COREsecureは、コンピュータの「核」であるOSを保護します。OSを攻撃から守るための、最後のセキュリティ層を提供します。

● 使用は簡単

COREsecureは、ユーザフレンドリーに設計されており、使用が簡単です。手動では面倒、または時間のかかるプロセスをツールによって自動的に行うことで、セキュリティ知識のレベルに関係なく、誰でも簡単にセキュリティを強化することを可能にしました。

● システムの「核」を保護

セキュリティ製品メーカーの大部分は、境界セキュリティを中心とした製品を開発しています。COREsecureは、システムの「中枢神経」ともいわれるOSのセキュリティを強化します。

● 高い費用対効果

COREsecureは、他の製品と比べ、非常に手ごろな価格で入手することができます。COREsecureが自動で行うところの操作を、適度なセキュリティ知識を備えたIT技術者が手動で実行しようとした場合、サーバ1台につき、推定で約2日間の時間を要します。このプロセスは、まず英語で提供されている情報を収集することから始まり、セキュリティパネルの各設定を手動で変更し、さらには設定の変更後、すべて正常に動作するかどうかの確認を行わなければなりません。それに対して、COREsecureのインストールは、10分ほどで完了します。

● 気分はセキュリティ専門家

企業のサーバシステムのセキュリティを強化し、安全を保証することは、その責任を担うIT担当者にとって決して簡単なことではありません。しかし、COREsecureを使用すると、IT担当者は、まるでセキュリティ専門家であるかのように業務を遂行することができます。COREsecureは、セキュリティ専門家によって設計、開発されたツールです。このツールの開発に要した知識や経験は、軽視できる、または簡単に真似できるものではありません。

今回SIDCからCOREsuiteシリーズとしてCOREsecureを販売することになりました。ご興味などありましたらぜひご連絡を頂ければ幸いです。

お問い合わせ先

株式会社エス・アイ・ディ・シー (SIDC)

〒158-0097 東京都世田谷区用賀 4-10-1

世田谷ビジネススクエアタワー 3F

Tel : 03-5717-6540 / Fax : 03-5717-6541

HP: http://www.sidc.net

高まる電子メール保存のニーズに応えるメールタンクシリーズ

まだまだ電子メールを社員個人に管理させている企業は多いというのが実情ですが、しかし、それで大丈夫なのでしょう
か？ e-文書法が施行され、重要な取引や交渉の証拠として、電子メールの重要性はますます高まっています。既に米国の
金融機関や上場企業に対しては、企業改革法(SOX法)によって、メール保存は義務づけられており、日本でも近い将来法
令化されることは確実視されています。個人情報保護対策や内部監査の証拠集めとして、ネットワークフォレンジックが
注目されています。その一環として、メール保存のニーズも当然日に日に高まって来ています。

私たちコネクタスは、このような「メール保存時代」の到来を早くから予測し、安い・簡単をコンセプトに手軽なメールアー
カイブ機器としてメールタンクシリーズの開発・販売を行っております。

コネクタスの技術が 日本ユニシス情報システム様の 「メール監査/保存サービス」に採用

このような社会的背景の中、日本ユニシス情報システム株
式会社様(以下、日本ユニシス情報システム様)も ASPサー
ビス「メール監査/保存サービス」を開始し、このコア技術
には、弊社のメールアーカイブ技術が採用されていま
す。採用されたメールアーカイブ技術は、メールタン
ク開発で培ってきたメール保存技術を発展させた、弊社
独自の技術です。既にメールアーカイブ機器として一定
の評価を得た「メールタンクシリーズ」の開発実績と、多く
の大手優良企業への販売実績が高く評価され、弊社の技
術が同サービスへ採用されたものです。

Security Solution 2005 出展のご報告 大規模ネットワークに対応した「フォレンジアム」 を参考出展

また、弊社コネクタスは、2005/10/26(水)~28(金)の期間、
東京ビッグサイトで開催された「Security Solution 2005」



(日経BP社主催)にも出展いたしました。その際弊社は、
日本ユニシス情報システム様と共同でブースを運営し、弊
社のメールタンクシリーズと、日本ユニシス情報システム
様のASPサービス「メール監査/保存サービス」のご紹介
を大々的にご紹介させていただき、大盛況に終わらせて
いただきました。会期中、参考出展として、大規模ネッ
トワークに対応したメールタンクシリーズの新製品「メー
ルタンク・フォレンジアム」の出展もさせて頂き、こちらに
も多くの方から反響をいただくことができました。メール
タンク「フォレンジアム」は、従来のメールタンクシリーズ
ではカバーできなかった大規模なネットワークに対応し
たメールアーカイブソリューションです。この製品は、日
本ユニシス情報システム様のASPサービス「メール監査
/保存サービス」のために開発したメール保存・監査技術
をフィードバックしたものです。

柔軟なマルチアドミン機能や、添付ファイルの中身ま
でも精査できるコンテンツフィルタリング機能。拡張子や
MIMEタイプではなく、添付ファイルの「中身」でファイル
タイプを判断する添付ファイルポリシー設定機能など、膨
大な数のエンドユーザからのヒアリングを元に実運用の際
に必要な様々な機能を多数備えています。数千名クラ
スの大規模ネットワークや、顧客への「メール保存サー
ビス」の提供を考えておられているISP事業者様を対象と
して、来年初頭の発売を予定しております。ご期待ください。

お問い合わせ先

株式会社コネクタス

〒108-0023 東京都港区芝浦4丁目16番25号
第3安全ビル

Tel: 03-5730-4851 Fax: 03-5730-4853

e-mail: info-jnsa@connectous.co.jp

新日本監査法人

http://www.siai.co.jp

新日本監査法人  ERNST & YOUNG

新日本インテグリティアシュアランス

新日本監査法人は、世界140カ国で100,000名以上のスタッフを擁し、質の高い専門的サービスを提供する総収入145億ドルの世界最大級の会計事務所であるアーンスト・アンド・ヤングのメンバーファームとして、日本においても会計監査を始め高品質で専門性の高いアシュアランスサービスを提供しています。

新日本監査法人の100%子会社である新日本インテグリティアシュアランス株式会社(SIAI)は、グループ全体のCSR活動の推進を図るとともに、民間・公的機関などのあらゆる組織に対するCSRマネジメント並びに非財務分野における内部統制態勢のアドバイザー業務を通じて、CSRの社会普及に尽力しています。(下記サービスメニューをご参照ください。)

SIAIでは、企業が持続的に成長するためには、事業上の資産価値をもつ情報資産である情報(文書、データ、会話など)と情報システムを保護することが必要不可欠と考え、「情報管理コンプライアンス」サービスをご提供しています。情報管理コンプライアンスとは、特定の法令等への準拠やBS7799やISMSといった第三者認証の取得だけを最終目的とはせず、各組織が表明する方針に基づく情報管理のルールを誠実に守り、顧客や株主といったステークホルダーへの説明責任を実質的に果たすための取組みを指します。我々、SIAIは、CSRマネジメント並びに内部統制態勢構築の一環として、情報管理コンプライアンス関連サービスを位置づけ、企業の持続的な成長をご支援したいと考えています。

SIAI サービスメニュー

(<http://www.siai.co.jp/service/index.html>)

<p>CSR/USR/GSR 関連サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現状評価、ステークホルダー分析サービス • CSR/USR/GSR 報告書、サステナビリティ報告書作成支援サービス • AA1000 保証、GRI ガイドライン準拠性保証サービス
<p>内部統制関連サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現状評価、リスクの棚卸しサービス • 内部監査、グループ企業監査サービス
<p>コンプライアンス関連サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現状評価、浸透度調査サービス • 行動規範、コンプライアンス規程作成支援サービス • 内部監査、ECS2000 保証サービス
<p>情報管理コンプライアンス関連サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現状評価、リスク分析サービス • 情報セキュリティポリシー等規程作成支援サービス • 情報セキュリティ監査、個人情報保護監査サービス
<p>事業継続管理 (BCM/BCP) 関連サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> • 業務影響度分析 (BIA) サービス • 事業継続計画 (BCP) 作成支援サービス • BCP 監査・レビューサービス
<p>環境関連サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> • 環境報告書作成支援サービス • 環境報告書ガイドライン準拠性保証サービス (新日本監査法人グループにてご提供いたします。)

お問い合わせ先 新日本インテグリティアシュアランス株式会社
 〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル
 Tel.03-3503-1116 Fax.03-3503-1151 <http://www.siai.co.jp>
 担当: 宮原 潤 (miyahara-jn@shinnihon.or.jp)

マカフィー株式会社
<http://www.mcafee.com/jp/>



マカフィーは、不正侵入防止とリスクマネジメントのリーディングカンパニーです。マカフィーは、世界中で使用されているシステムとネットワークを、既知、未知の脅威からプロアクティブに防御しています。マカフィーの包括的なソリューションは絶え間ない技術研究に支えられており、個人ユーザをはじめ、中小企業、大企業、官公庁・自治体、ISPなど様々なユーザそしてパートナーから、高い信頼を獲得しています。マカフィーの実践的なアプローチは、効率的なセキュリティ投資に向けて、PDCAサイクルを通じたセキュリティの継続的なレベルアップを支援します。

代表的なソリューションは以下の通りです。

McAfee Secure Content Management Appliance

スパイウェア、スパム、フィッシング、ウイルス、トロイの木馬、メール/Webを介した情報漏洩等の脅威をゲートウェイで高速にかつ包括的にブロックするアプライアンス製品。従来のWebShield Applianceの機能とパフォーマンスを大幅に改善するとともに、名称変更いたしました。中小企業から大企業まで、幅広くサポートするラインナップで提供しています。

McAfee IntruShield

世界のIPS（不正侵入防止システム）市場におけるトップブランド。既知の脅威に対するシグネチャ解析、未知の脅威にも対応するアノマリ検知やDoS攻撃解析を統合し、暗号化攻撃への対応も含め、ゼロデイ攻撃にも対応するプロアクティブな不正侵入防止ソリューションです。また、1台のセンサーで多様なセグメントの監視が可能となり、他社製品より少ないセンサーで大規模ネットワークを防御できるため、企業ユーザのセキュリティ投資におけるROI向上に貢献します。

McAfee Managed VirusScan

運用管理に対するコストと負荷を劇的に低減する、管理サーバ不要のASP型全自動セキュリティ対策サービス。簡単なインストール、全自動の定義ファイル更新で、専任管理者のいない中小企業でも、この製品一つで、ウイルス、スパイウェア、バッファオーバーフローといった多種多様な攻撃から、ネットワークを防御できます。

詳しくは、

<http://www.mcafee.com/jp/> をご覧ください。

お問い合わせ先

マカフィー株式会社 営業統括本部

McAfee IntruShield: 03-5428-1104

McAfee IntruShield 以外の製品: 03-5428-1228